

科目名	ミュージックリテラシー 1							年度	2026
英語科目名	Music Literacy 1							学期	前期
学科・学年	コンサート・イベント科 1年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	山中一郎		教員の実務経験	有	実務経験の職種	レコード会社、コンサートプロモーター、弁理士・行政書士			
【科目の目的】 音楽ビジネスの構造・諸問題・話題に関するリテラシーの向上、及び業界で活動するために必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。一言に音楽業界といっても、さまざまな職種が存在するが、そのいずれにも通用する知識・能力であり、またその領域は、音楽業界と密接に関係する周辺のエンターテインメントにも及ぶ。									
【科目の概要】 音楽業界における知識・テーマ（特に実技ではカヴァーされない範囲）を意識して計画される。具体的には、現在のエンタメ業界を読み解く基礎知識を講義する。業界の基礎となる知的財産（著作権等）にも触れる。必要に応じ、グループワークも適宜実施し、様々な議題について意見交換し結論を導き出すことで、会議の意義を学習する。									
【到達目標】 A. 音楽ビジネスにおける、様々な業務・職業の存在とそれぞれの役割、それぞれの関係性を理解する B. アーティストが創作するモノ（主に著作物）と、それに与えられる知的財産権（主に著作権）について、基本を理解する。 C. 総合的な思考力の発展 - 多面的な視点から問題や課題へアプローチ									
【授業の注意点】 授業時限数の4分の3以上出席しない学生は、定期試験を受験する事ができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	音楽関連の様々な業務・職業の内容と、その関係性を正しく理解している。		音楽関連の様々な業務・職業の存在と、個々の内容を把握している。		音楽業界の様々な業務・職業の内容について、ほとんど理解していない。				
到達目標 B	著作権法の基本（著作物、著作権、著作隣接権）、その他授業で取扱う知的財産権の基本を、正しく理解している。	著作権法の基本、その他授業で取扱う知的財産権の基本を、概ね理解している。	著作権法の基本だけは、概ね理解している。	著作権法の基本、その他授業で扱う知的財産権の基本のいずれも、理解があやふやである。	著作権法の基本、その他授業で扱う知的財産権の基本のいずれも、ほとんど理解していない。				
到達目標 C	得た知識を用いて様々な分野への転用を考えられる。		広い視野を持って物事を考える事ができている。		物事を多面的に考えることができていない。				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 毎回レジュメ・資料を配布する。									
【参考資料】 参考書・参考資料等は、授業中に指示する。									
【成績の評価方法・評価基準】 期末試験、授業内課題									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ミュージックリテラシー 1			年度	2026
英語表記		Music Literacy 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス	講師の経歴紹介を通じ、音楽業界への道をイメージする	1 自己紹介と実績	教員の実績からこれから何を学ぶのかイメージを持つ。	3	
			2 シラバス解説	授業の主旨を理解し、これからの学びの目的意識を持てる。		
			3 音楽業界について	音楽業界について考え、未来の自分の関わり方を想像できる。		
2	音楽業界全体像	アーティストが生み出すモノ（著作権等）を軸に、音楽業界の全体構造をつかむ。	1 著作物とは何か	アーティストの創作物（音楽）と、著作物性について理解できる。	3	
			2 著作者・著作権とは何か	著作者、無法式主義、著作権の支分権について大まかに説明できる。		
			3 著作権等と業界構造	著作者（著作権者）と、サポートする各業界の構造を把握する。		
3	レコード会社(1)	レコード技術の登場以降の、業界の歴史、基本構造を学ぶ。	1 レコード技術と業界の誕生	レコード技術の発明を皮切りとするレコード業界成立の歴史を知る。	3	
			2 メジャー・レーベルとは	日本と海外の定義の違いを理解しつつ、主要各社を押さえる。		
			3 インディーズ・レーベルとは	メジャーとの違い、その発展と役割を理解する。		
4	レコード会社(2)	CDの制作～販売過程を通じて、レコード会社の基本的な業務を学ぶ。	1 アーティストの発掘	契約するアーティストの発掘の主な方法について理解する。	3	
			2 音楽制作方法	A&Rの言葉の意味、役割、楽曲制作方法の種類を押さえる。		
			3 製造・流通プロセス	営業部門の役割、製造部門の役割を押さえる。		
5	レコード会社(3)	CDからダウンロード、ストリーミングなど音楽市場・流通の変化を学ぶ。	1 CDの誕生と再販制度	CDが果たした役割と、再販制度について理解する。	3	
			2 新しい流通誕生の経緯	ダウンロード、ストリーミング誕生の経緯・理由を押さえる。		
			3 世界の音楽市場と日本	世界の音楽市場の現況と、日本市場の特殊性を理解する。		
6	レコード会社(4)	変化するレコード会社、アーティストの現在の姿を学ぶ。	1 著作隣接権ビジネス	レコード会社の根幹である著作隣接権（原盤権）ビジネスを学ぶ。	3	
			2 レコード会社、事務所の変化	レコード会社に求められる役割の変化を学ぶ。		
			3 アーティストの変化	レコード会社に頼らないアーティスト活動について論点を押さえる。		
7	マネージメント(1)	マネージメント（プロダクション、事務所）の業務内容を把握する。	1 マネージメントとは何か	その基本的な役割、業務内容、主要団体について押さえる。	3	
			2 専属契約とは	専属契約（書）の基本を理解する。		
			3 海外との違い	日本と欧米のマネージメントの役割の違いについて理解する。		
8	マネージメント(2) 【マーチャンダイジングと知財②】	マネージメント管轄領域として、マーチャンダイジングビジネスの基本構造を学ぶ。	1 マーチャンの重要性	マーチャンダイジングの重要性が上がった理由を理解する。	3	
			2 マーチャンの種類	ツアー/リテール・マーチャンダイジングの違いを理解する。		
			3 マーチャンの基本	マーチャン・ビジネスの基本的注意点、利益構造等を押さえる。		
9	マネージメント(3) 【マーチャンダイジングと知財②】	マーチャンダイジングに必須の、知的財産権（商標権等）を学ぶ。	1 マーチャンと知的財産権	マーチャンビジネスに必須の、知的財産権を押さえる。	3	
			2 商標権とは何か	商標権の基本原則を理解する。		
			3 肖像権・パブリシティ権	2つの権利について、その違いを押さえながら理解する。		
10	マネージメント(4) 【ライブ・エンターテイメント①】	マネージメント管轄領域として、ライブ・ビジネスの歴史について学ぶ。	1 ライブ・ビジネスの歴史	日本の興行史について、技術革新とリンクしながら押さえていく。	3	
			2 ライブ・ビジネスの重要性	ライブの重要性が上がった理由を理解する。		
			3 ライブ・ビジネスの課題	会場不足等、伸びゆくビジネスの課題を押さえる。		
11	マネージメント(5) 【ライブ・エンターテイメント②】	変化し続ける現代のライブ・ビジネスの構造を学ぶ。	1 海外のライブ・ビジネス	日本との違いを押さえつつ、欧米の業界構造を学ぶ。	3	
			2 予算書とギャランティ	一般的な予算書を通じ、複数あるギャラの決定構造を理解する。		
			3 変化するチケット	チケットの種類、販売方法、転売対策等を学ぶ。		
12	音楽出版社等(1)	音楽著作権の基本と、JASRAC等著作権管理事業者の役割を学ぶ。	1 JASRACとは？	その成立経緯、役割を理解する。	3	
			2 音楽の著作権利用とは	音楽の著作物の利用と、対応する権利を押さえる。		
			3 JASRACとNEXTONE	両者を比較しながら、現在の音楽の著作権管理事業を把握する。		
13	音楽出版社等(2)	音楽著作権の基本と、音楽出版社の役割を学ぶ。	1 音楽出版社とは？	その役割を、著作権等管理事業者もふまえて、理解する。	3	
			2 音楽出版社の種類	音楽出版社の主な種類を押さえていく。		
			3 JASRACとNEXTONE	両者を比較しながら、現在の音楽の著作権管理事業を把握する。		
14	音楽出版社等(3)	エンタメに関係する著作権法について学ぶ。	1 音楽の著作権の利用とは	音楽の著作物の利用と、対応する権利を押さえる。	3	
			2 著作者人格権とは？	ブランドという言葉について説明できる。		
			3 著作物利用の注意点	自らのブランディングについて考えられる。		
15	まとめ	これまでの講義の要点を確認し自らの考えを述べられるようになる。	1 アーティストと各業界の関係	アーティストが生み出すモノ（権利）と各業界の役割が説明できる。	3	
			2 音楽業界の現状とこれから	音楽業界の現状と課題について自分の意見を持つことができる。		
			3 音楽業界と自分の指針	自分の目指す仕事と、そのまわりの仕事の関係性が把握できる。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等